岩手農大同窓会会報

【発行･編集】岩手県立農業大学校同窓会　岩手県胆沢郡金ケ崎町六原蟹子沢 14　TEL 0197-43-2211

第 29 号
令和４年
３月１日

令和４年１月 19 日校門正面から撮影

気候変動に対応した 新しい農業へのチャレンジ

岩手県立農業大学校同窓会

会　長　**笹　田　昭　市**

早春の候、同窓会員の皆様には、新型コロナウイルスにも負けずにお元気でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、令和３年は気候変動の激しい年でした。私は、「ＪＡ新いわて」にお世話になり果樹の仕事をしておりますが、４月の低温だけでなく、６月～７月の高温・乾燥・降雹等でサクランボやりんごは大きな被害を受けました。

ＪＡ新いわて管内の気候をまとめていると、地球の温暖化は確実に進んでいるという実感があります。りんごでは、品種の栽培適地を検討する時に「温量指数」というものを参考にしています。詳しいことは省略しますが、月の平均気温をベースに積算したものです。りんごの代表的な品種である「ふじ」の栽培適地は 75 以上とされています。昭和 60 年頃には、二戸では 77 でしたが、他の県北地域では 70～75 で「ふじ」の栽培不適地と言われていました。当時の資料では、県内各地の温量指数は、盛岡：79、江刺：83、一関：81、県外では、青森県りんご試験場：84.1、山形県園試：94.4、福島県園試：100.2 でした。

今年の温量指数を調べてみると、二戸：82.5、盛岡：93.9、江刺：100.5、一関：101.1 でした。りんごの栽培期間の気温だけでみると、江刺と一関は 35 年位前の福島県園試（福島市飯坂）と同じになってきています。

生産環境がこのように変動している中で、果樹農家はりんご品種の選定だけでなく、日本梨や桃等りんご以外の果樹栽培への挑戦も既に始めています。地球温暖化を防ぐ対策も大事ですが、既に変動している気候に対応した農業を模索していかねばなりません。これからの農業を目指す若者のチャレンジを応援するために、農業大学校の果たす役割は大きいのではないでしょうか。

「啐啄同期」（そったくどうき）

岩手県立農業大学校

校長　**菊　池　徹　哉**

現在、日本の農業生産構造は、65 歳以上の農業従事者が全体の 70%を占める一方、15～29 歳の割合は1.2%と、現実として高齢者が農業を支えており、農業の将来が見通せない状況と言わざるを得ない。

こうした中、「農業を学びたい」、「農業生産にかかわる仕事をしたい」とする学生に対して、実践的農業技術等の教育を行う農業大学校に、農業生産者や農業法人から熱い視線が注がれている。

農業大学校は、一昔前のように自家就農に向けて農家の子弟が学生の大部分であった時代と様相を変え、非農家出身の学生が過半を占めている。

地球温暖化などの大きな外部環境の変化が進む中、労働力不足の解消に向けたスマート農業の普及拡大、新型コロナ禍を踏まえたSNSを活用した農産物情報の発信など、先の見通せない時代であっても、時代の大きな潮流を捉えたうえで、強い意志をもって課題解決を図りながら農業に果敢に取り組もうとする若い農業人材の育成を進めていくことが、農業大学校に対する時代の要請なのだろう。

話は変わるが、農業大学校の教職員の多くは農業関係の県職員であり、農業改良普及センターや研究機関等で、農業者に技術的・経営的な指導を行ってきた経験はあっても、学校現場で実際に教壇に立ったことは無いのだが、人事面談の際には「農業大学校で学生に対して、講義や実習を指導することに非常にやりがいを感じる。引き続き、ここで働きたい。」と、一様に口にするのである。

禅語に、理想の師匠と弟子の関係を指す言葉として「啐啄同期（そったくどうき）（同時）」がある。

この意味は、「啐（そつ）」は、卵の中の雛が「もうすぐ生まれるよ」と内側から殻をつつく音。「啄(たく)」とは、そんな卵の変化に気づいた親鳥が、「ここから出てきなさい」と外側から殻をつつく音。これが同じタイミングで行われる子弟関係が望ましいというものらしい。

得てして、生まれる気のないヒナに対して外部から執拗に殻をつついたり、ヒナがまさに生まれようとしているのに、そのことに気づかずにいたりする師匠が多いのではないか。

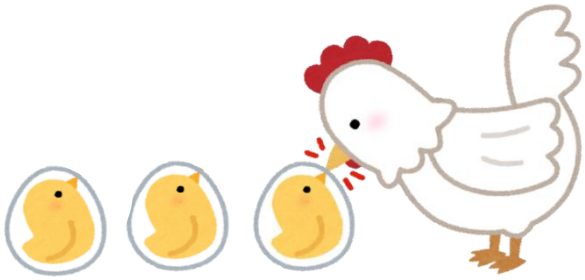
この言葉は、教師から一方的に学問を教えるのではなく、学ぼうとする学生の意欲を引き出し、そのタイミングを逃さず適切に指導することにより、学生を新たな高みに引き上げるような関係性を指していると、私は受け止めている。

その関係性が成立する際に、弟子は確実に成長し、学業などにおいて大きな成果を残すのであろう。今年度の岩手農大において、そうした成果がいくつも報告されている。

入学時に必ずしも成績が良くなかった学生、何を考えているかわからないと感じた学生達が、農大での２年間の学びにより、「この子は大きく伸びた」と思える時、様々な苦労を重ねながら学生と向き合い、指導した賜物として、大きな喜びとやりがい、そして教員自らの成長を実感することができる。だから、農大勤務を希望する職員が多いのだと気づいた。

今年も、金ケ崎町六原で過ごした２年間で、それぞれの殻を破った 43 名の頼もしい若者達が、農業を通じて自らの夢を実現しようと岩手県立農業大学校を巣立っていく。

卒業生に心からエールを送るとともに、同窓生の皆様、後輩達をよろしくお願いいたします。



－新たな旅立ちにあたり－

今春卒業し、同窓生の仲間入りをする学生からの寄稿

貴重な２年間に

農産経営科２年　**小野寺　祐哉**

農大では実習、卒業研究、事例研究などを通して水稲についての知識や技術を学ぶことができました。特にも卒業研究では自ら選定した課題の解決に向けて先生方や経営科の仲間に協力していただきながら栽培管理を行ったことは自分にとって貴重な経験になりました。卒業後は地元の奥州市にあるＪＡ岩手ふるさとに営農指導員として就職します。農大で学んだ知識や技術を活かし農業で地元の地域振興に携わりたいです。

「これまで」と「これから」

農産経営科２年　**谷川　瑛希**

農大では、実習や講義、事例研究を通じて、作物の栽培管理から加工、流通、販売、経営や実社会に関わる環境問題や農政など「農」が取り巻く分野について学んできました。また、学生自治会では学生の意見を汲み取り、学生生活をより有意義にするため、各委員長とともに取り組んできました。

卒業後の進路として、農業協同組合に内定を頂きました。４月からは、農業協同組合の一員として農を通じ地域振興に携わりたいと考えています。

経験をもとに、これから

野菜経営科２年　**琴畑　友基**

私は農業大学校に入学し、野菜について多くの経験をしてきました。また、多くの資格や免許を取得し、自身のスキルアップにつなげることができたため、２年間という時間を短く感じるほど、充実した生活を送ることができました。

私は卒業後、ＪＡグリーンサービス花巻へ就職し、育苗作業を中心とした仕事を行います。農大で学んだ経験を生かして、より良い苗を生産者に届けられるよう日々精進していきたいです。

２年間を通して

野菜経営科２年　**竹ヶ原　藍花**

農業大学校に入学してからの２年間で私の農業に対する意識が変わり、野菜栽培の技術や知識を得る中で、この先の人生で農業と深く関わっていくことへの喜びを感じました。寮で過ごした日々やクラスの仲間との出会いも、私にとってかけがえのないものになりました。

卒業後は、ＪＡ江刺に営農指導員として就職します。新しいことへの挑戦に不安もありますが、地域の農業を支えることができる人材になれるよう、日々の学びを大切に過ごしていきたいと思います。

農大では、、、

果樹経営科２年　**照井　幸汰**

私は農業大学校卒業後、奥州市江刺の（株）菅野農園に就職します。農業大学校在学中に実習や事例研究などで、様々な農業生産や加工、販売などの一連の流れなどを見ることができ、とても勉強になりました。また、農家派遣実習や寮の生活で多くの人とコミュニケーションを取ることの大切さを学び、経験を積むことができました。そして、卒業研究で行った作業や知識を生かし、これからの農業の発展に貢献していきたいと思います。

農大で得たもの

果樹経営科２年　**藤原　圭佑**

私は普通高校出身で、入学当初は少々不安な気持ちがありました。２年間は長いものと想像していたのですが、今思い返してみるとあっという間で、農業の大切さ、難しさ、面白さを知ることができました。また、寮生活や果樹の実習を通して自分自身大きく成長することができました。卒業後は岩手県農産物改良種苗センターに就職することが決定しました。農大で学んだ知識や技術を活かし、岩手県の農業に貢献したいと思います。

農大の２年間を振り返って

花き経営科２年　**工藤　夏季**

私の生家は酪農家ですが、花に興味があり花き経営科に入学しました。慣れない環境で過ごすことには不安もありましたが、毎日の座学や実習を通して沢山のことを学びました。フラワー装飾技能証の取得に向けては、毎日遅い時間まで課外レッスンを頑張り、みんなで合格することができました。充実した２年間でした。

私はホームセンターに就職します。卒業研究や授業で習ったことを活かし、園芸関係の部門で活躍していきたいと思います。

有意義な日々

花き経営科２年　**菅原　夏音**

私は、高校時代に営農指導員になりたいと思い、農大に入学しました。農大での２年間は、講義や実習、事例研究、フラワーデザインを通して、高校時代には学べなかった専門的なことを学ぶことができました。また、素敵な先生や個性的な仲間と出会えて、とても有意義な学生生活を送ることができました。

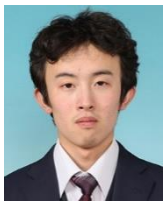
卒業後は、ＪＡいわて平泉に就職します。農大で学んだ知識や技術を活かし、地元に貢献できるＪＡ職員になれるよう励んでいきたいと思います。

夢の実現

酪農経営科２年　**大上　李玖**

私は、特に牛が好きではありませんでしたが、高校生の時、酪農は稼げると知り、何不自由無い生活を一生続けたいという夢を持ちました。全く牛のことを知らなかったため農大に入学し、２年間で牛について多くのことを学びました。

卒業後は自家就農し、最終的にはゆとりを持ちながら多くのお金を稼げるよう頑張っていきたいと思います。副業でヘルパー業務等も行い、様々な牛舎を見て、自分の農場の改良を進めていきたいと思います。



学生生活を通じて

酪農経営科２年　**八木　蓮**

私は、高校では動物科学科の大動物班として牛について３年間学び、農大では実習や座学、事例研究等を通じて酪農に重点を置いてより専門的なことを学びました。また、高校・農大の５年間を寮で過ごし、同じ志を持った仲間とともに切磋琢磨しながら充実した毎日となりました。

卒業後はＪＡ新いわてで人工授精師として働くため、農大で学んだことを活かし、先輩方や周りの方々から技術を吸収しながら成長していきたいと思います。

卒業後の目標

肉畜経営科２年　**伊藤　龍雅**

祖父が和牛の繁殖経営をしており、幼いころから牛が身近な存在で将来は牛飼いになるという夢を持ちました。農業大学校入学後での日々は実習、座学、事例研修を通して良質な肉牛生産など高校時より専門的な技術を学ぶことができました。農大卒業後は、金ケ崎町で肥育牛を生産している岩手パイオニア牧場へ就職します。特に肥育牛は手を掛けた分だけ返してくれると感じています。農業大学校で学んだことを生かすとともに牛に寄り添い良質な肉牛を生産できるように頑張ります。

この２年間の経験を

肉畜経営科２年　**君塚　美月**

私は地元を離れて、入学して早２年、多くの方と交流し、農業特に畜産について学んできました。この２年間は今までで一番濃い２年間となりました。卒業研究では東日本大会にも進み、とても良い経験となり、今後の目標が明確なものになりました。

応援してくれた家族とここでの出会いに感謝し、今後は農業大学校で学んだことを活かしつつ、社会人になっても農業をまだまだ学び続けたいと思っています。

◆　支　部　便　り　◆

北上支部

「鉢花の可能性を家族経営に活かす」

北上支部長　**千　田　　敏　夫**

北上支部からは小田嶋正一さんをご紹介いたします。

北上市「鬼の館」の少し西側にハウスと沢山の鉢植えが並んでいる所に正一さんの御自宅があります。

正一さんは昭和 60 年に農産課程農業専攻を卒業後、岩手中部農業共済組合に就職し、組合員からも信頼される職員として活躍されていましたが、御両親の健康不安をきっかけに平成 22 年に共済組合を退職して就農しました。

小田嶋家ではそれまで水稲を主にアスパラガスや小菊を栽培していましたが、正一さんが元々興味を持っていた園芸について更に勉強を重ね、経営の中に鉢花生産を取り入れる事でやりがいのある家族経営を目指しました。

現在は水稲 12ha にクレマチス 700 鉢、リンドウ 8,000 鉢を栽培しており、ＪＡ花巻鉢花生産部会の副部会長として生産者相互の技術向上や生産振興にも積極的に取り組んでいます。そんな中でも日頃の努力の成果として「岩手フラワーコンテスト」において、平成 30 年と令和元年、令和３年にも１等賞を受賞し、輝かしい実績を挙げています。生産しているリンドウのなかでも全国初の八重咲の「青くじゃく」という品種は正一さんが命名したとの事で、積み重ねた実績が花開いた結果だと感じました。

地域では岩崎鬼剣舞の師匠として後身の指導にあたる一方、副自治会長や老健施設の理事としても、地域の方々からの信望の厚い正一さんです。

「これからも日々の生育観察を通じて、より良い品質の鉢花をより多くの消費者に届けられるよう頑張って行きたいという決意と共に、家族と地域に支えられながら、地域を思い、地域に根差した家族経営をこれからも発展させたい」と笑顔で話されていました。

小田嶋正一さん ▶

遠野支部

地域に根差す、楽しく儲かる農業を目指して

遠野支部長　**石　関　　啓　志**

今回は、遠野市農業活性化アドバイザーとして頑張っている菊池清重さんを紹介します。菊池さんは、農業大学校を卒業後県園芸試験場から石鳥谷八重畑農協を経て現在の花巻農協の園芸指導担当者として活躍、平成 28 年退職後、遠野市農業活性化アドバイザーとしてＪＡ遠野市の農業活性化のために、取り組んでいます。遠野市では畜産園芸課に籍を置き、市内の担い手農業者、産直組織、営農組織などを中心にＪＡと連携しながら巡回し、園芸作物の栽培推進や栽培方法などの提案、販路など相談を行いながら、魅力ある農業ができるよう今までの経験を活かしアドバイスしています。

遠野市では、ホップや葉タバコなどが特産品としてありますが、近年は栽培者の高齢化から廃作や作目転換を望む農業者もあり、また米価下落から米以外の作物に転換相談があり、その対応に忙しい毎日です。

経営では、水稲約２ｈａ、キュウリ、キャベツなどを栽培し、ＪＡや「産直かみごう」に出荷し、自ら地域にあった農業のあり方を実践しています。

アドバイスの基本の考え方は、「地域に根差す、楽しく儲かる農業」をモットーに相談に対応し、農家の皆さんからは「清重先生」などと呼ばれ慕われています。昨今の農業情勢は米余りから米価下落や高齢化、後継者不足、ＴＰＰによる将来不安など厳しい状況が続いています。経験を活かしたアドバイスにより遠野市の農業が活性化し楽しい農業ができるよう期待します。

最後に、農業大学校に於かれましては、今後も時代に即した農業の担い手や地域の農業リーダー等を育成する場として発展いただくよう期待いたします。

菊池清重さん ▶

久慈支部　山形町来内で畜産経営に取り組んでいる岩手農大ＯＢ

久慈支部長　**外　舘　　則　男**

久慈市山形町来内で畜産（酪農+和牛生産）に取り組んでいる安堵城龍篤さん（32）の近況について紹介させていただきます。

龍篤さんは、平成 22 年３月に岩手県立農業大学校を卒業し、その後新岩手農業協同組合に就職されました。同農協では酪農関係を主に担当しながら、平成 25 年 12 月には受精卵移植師免許を取得したとのことです。平成 28 年３月に６年間勤務した同農協を退職し、同年８月から妻堤美さんと新規就農して現在に至っております。

龍篤さんの就農への強い気持ちは、県立久慈東高校在学中からだった言います。幼い頃から家業の酪農経営で父母の日々の作業の大変さを見ていて、いつかは手助けしたいと思って育ったとのことです。

農協在職中は将来の就農のため勤務を通じ酪農を中心とした知識・技術等の習得に努めたとのことです。また、その間久慈市宇部町出身の２歳年上の堤美さんと知りあい、結婚し、現在８歳の長男、５歳の長女、２歳の次女と３人の子供さんに囲まれ、微笑ましい家庭生活をおくられております。

龍篤さんは酪農家の３代目だそうで、現在の経営状況は、父母と龍篤さん夫婦の４人で、乳牛ホルスタインを経産牛約 50 頭・育成牛 30 頭、和牛を約 20 頭飼育していて、和牛は新規就農の際新たに導入したとのことです。

今後の経営に当たっては、飼育頭数に比較して草地面積が少なく、外部への預託等も行っていて、このことによる負担が経営を圧迫している状況にあるため、草地の確保等を進めたい。また、飼育頭数は現状維持の方向で、自身の受精卵移植師免許等を有効に活用し、乳牛の借り腹産子による和牛の生産効率化や乳牛の生産能力の向上等を進め、農業所得の向上に重点を置いた経営を進めたいと言っております。

最後に龍篤さんは「畜産経営を取り巻く環境は依然厳しいが、あらゆるピンチをチャンスと捉え、果敢にチャレンジしていきたい」と力強く述べられており、当地域の酪農・和牛生産の中核農家として益々活躍していただけるものと思っております。

安堵城龍篤さん ▶

JGAP 家畜・畜産物の認証を取得！！ ～県内教育機関で初めて～

本校は、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理に取り組んでいる農場であることが認められ、令和３年 11 月 24 日付けで JGAP【家畜・畜産物】の認証（認証品目：乳用牛・生乳、肉用牛。認証工程：飼養工程・畜産物取扱い工程・自給飼料生産工程）を取得しました。

これは、県内の教育機関で初めての取得であり、乳用牛・生乳、肉用牛の２品目での取得も県内初となります。本校では、学生が高度な農場管理手法を身に付けられるよう、平成 30 年度から新たなカリキュラムとして農業生産工程管理に関する教育に取り組んでいます。

今回、その一環として、令和３年４月から JGAP の取組みを開始し、令和３年 11 月４日の審査を経て認証取得しました。

この JGAP【家畜・畜産物】の認証取得を機に、農場 HACCP 認証と併せ、更なる高度な技術と経営感覚を身につけた学生の育成、並びに、消費者へ安全の提供に努めてまいります。

また、本校の取組みが、JGAP【家畜・畜産物】の普及拡大、そして本県の畜産物の安全性確保の取組みにつながることを期待します。

JGAP 認証審査の様子

第 32 回ヤンマー学生懸賞論文・作文」金賞受賞
～２年連続の快挙～

令和４年１月 21 日、第 32 回ヤンマー学生懸賞論文・作文の入選発表会が行われました。今回の入選発表会は、新型コロナ感染予防のためオンライン開催となりましたが、「作文の部」で、本校果樹経営科２年の千田朋実さんが、478 点の応募の中から最高賞である「金賞」を受賞いたしました。

本校では、金賞受賞は前回の初受賞に続き２年連続となる快挙となりました。

千田さんの作品「農業に恩返し」は、「高校卒業後に看護学校に入学したが、自分に適性があるか悩んだ末に岩手農大に入学。そこで自分の打ち込める世界を見つけ、さらに将来の夢を実現するために岩手大学農学部の編入試験を受けて合格した。さらに大学で学びを深め、農業に恩返したい」という経緯が大変素直に書かれていることが高く評価されたようです。

結びに「遠回りした経験は私の財産です」という、きらりと光る表現が盛り込まれており、仕事や進路を真剣に考え抜いて行動したことが伝わってきます。

４月から新たな道に進む千田さんの今後の活躍を期待しています。

肉畜経営科１年生が快挙！
～県の政策提案コンテストで準優勝を受賞～

令和３年８月５日～６日に盛岡市で開催された「岩手県農林水産部政策提案型調査研究コンテスト Wild Cup 2021」において、肉畜経営科１年生が発表した「水畜連携～水産業と連携した環境保全型肉用牛増頭対策～」が優秀作品「準優勝」を受賞しました。

Wild Cup は、従来にない野心的な政策立案に向けた調査・研究を通じ、農林水産業の活性化及び職員のスキルアップを目的に、県農林水産部が 2016 年度から毎年１回開催しているコンテストであり、通算６回目となる今回は 48 演題がエントリー。農業大学校からの発表は今回が初であり、２演題発表しました。

肉畜経営科の学生達は、国や県が掲げる肉用牛の増頭計画や地球温暖化の原因となる温室効果ガス総排出量に占める牛由来のメタン排出割合などを調査するとともに、地球温暖化防止のため、温室効果ガス排出量を 2030 年度までに 2013 年度比で 46%削減するという国の目標と、肉用牛の飼養頭数を 2030 年度までに 2018 年度比で約 18%増頭するという県の目標を達成するには、アメリカやオーストラリアで研究が進められているメタン削減効果の高い「カギケノリ」という海藻の牛への給与が必要であることを提案しました。

発表に向けては、６月からクラス全員で、国や県の肉用牛振興施策や地球温暖化の現状についての基礎資料作成に取り組み、夏休み返上でスライド原稿と発表に対する想定問答集を完成させました。

発表当日は、県の石川政策企画部長や佐藤農林水産部長が審査員席に座る中、発表を担当した学生達は緊張しながらも、会場に駆けつけたクラス全員の応援を受けて、無事発表を終えました。

学生達は、８月 27 日に県庁農林水産部で開催された表彰式に出席、８月 30 日に本校の職員室で受賞報告し、「今回の経験を今後の卒業研究などに活かしていきたい。」と抱負を語りました。

令和３年度岩手県立農業大学校同窓会総会報告（抜粋）

令和３年度総会は、新型コロナコロナ感染症の拡大に伴い、書面による審議となりました。その結果、代議員 31 名中 31 名の賛成（棄権４名）で承認されました。総会で決定した事業計画の概要は次のとおりです。

【令和３年度事業計画】

本会の目的達成のため、支部活動の促進と会報の内容充実等により組織活動の強化を図るとともに、農業大学校の教育目標を支援する事業を次の通り実施することとしております。

1　支部活動の促進（支部活動への助成）
2　同窓会会員台帳の整備
3　同窓会会報の発行（令和４年３月上旬）
4　農業大学校卒業生交流への支援
5　農業大学校事業支援
(1)　海外農業研修代替に対する事例研究支援
(2)　オープンキャンパス事業支援
　（令和３年７月３日、８月７日）
(3)　農大祭支援
　（令和３年 11 月６日）
(4)　学生表彰事業（卒業式にて授与）
　① 名称：岩手農大同窓会長賞
　② 対象：皆勤（２年間無欠席）の学生
6　農大同窓会全国連盟・東日本同窓会連盟への参加
7　その他
(1)　入学式（令和３年４月９日）
(2)　卒業式（令和４年３月９日）

令和３年度同窓会役員名簿

役職	氏名	支部	役職	氏名	支部
会長	笹田　昭市	盛岡	理事	槻山　　隆	一関
副会長	高﨑　覚志	二戸	理事	林田　　勲	気仙
副会長	石関　啓志	遠野	理事	内舘　勝則	宮古
理事	欠員	岩手	理事	岩城　　明	久慈
理事	菅原　忠文	紫波	監事	千葉　欣哉	北上
理事	藤原　勝栄	花巻	監事	中家　将介	奥州
理事	千田　敏夫	北上	事務局長	小原　浩美	奥州
理事	及川　良直	奥州	事務局員	武田哲、太田原健二	農大

令和４年３月卒業予定者の進路状況について

今年度の卒業生は 43 名で、進路の内訳は自家就農５名、農業法人等 18 名、農業団体６名、農業関連企業１名、一般企業等４名、公務員等５名、研修２名、進学２名となっております。

主な進路先は以下のとおりです。

区　分	進　路　先
就　農	大仙市、仙北市、久慈市、白石市、葛巻町
農業法人等	北上市機械化農業公社、やまに農産㈱、ベルグアース㈱花巻農場、キートスファーム㈱、㈱サラダファーム、㈱耕野、㈱紫波フルーツパーク、㈱菅野農園、(有)ハッピーヒルファーム、㈱岩手パイオニア牧場、(有)ファーム菅久、㈱JA グリーンサービス花巻㈱権右衛門、㈱岩手ホテルアンドリゾート、個人（宮城県）
農業団体	JA 岩手ふるさと、JA いわて中央、JA 江刺、JA 新いわて、JA いわて平泉
農業関連企業	㈱湯田牛乳公社
一般企業等	能代商工会議所、㈱ユーアイ、㈱サンデー、㈱坪井花苑
公務員等	農業・食品産業技術総合研究機構、岩手県農産物改良種苗センター、洋野町、農大
研　修	宮城白石牧場、個人（北海道）
進　学	岩手大学農学部、東京農業大学農学部